



『やりたいこと』と『やれること』

時々、私のところに「カウンセラーになりたい」というご相談が来ます。高校生や大学生からのご相談もありますが、すでに社会人として何かしらの職に就いている方からのご相談もあります。

「学生時代に憧れた夢だったけれど、自信がなくて別の道に進みました。でも、社会人になって働くうちに、やはり挑戦してみたくなりました。」と仰り、資格取得を目指される人にお会いすることがあります。働きながら学校に通われたり、研修を受けられたりする姿はとても充実されて見えます。

ご家族や、ご友人から「カウンセラーは稼げないからやめておけ」と助言されることも、夢に向かって突き進む人の耳にはあまり入らないようです。そして、実際に夢を叶えられた方と、私もご一緒に仕事をすることもあります。しかし、残念なことに、理想と現実のギャップに挫かれて、カウンセラーをあきらめてしまわれる人にも毎年のようにお会いしています。

以前にも書きましたが、カウンセラーという仕事は本来なくてもよい業務だと私は考えています。

病院はお医者さんと看護師さんと事務や検査のプロが患者さんのご相談に乗られれば良いですし、学校も各教科や養護の先生、事務方が生徒に寄り添われれば問題ないはずですが。しかしながら、それぞれの現場で新たな問題が起こっていたり、それを解決するためには、従来のやり方では立ち行かなくなったのかもしれない。

いつの間にか、病院や学校にカウンセラーという役職

が置かれるようになり、現在では、医療、教育、福祉、産業、司法などあらゆる場での活動を期待された『公認心理師』という国家資格ができました。国家資格化の流れは、社会の中でカウンセラーという立場が認知され、必要と判断されたことで生まれたのでしょうか。それとも、カウンセラーという立場の私たちが、更なる活動の場や、より良い待遇を求めた結果だったのでしょうか。国家資格化以前から、私を含め、すでに相談業務に就いていたカウンセラーたちは現認者として扱われ、経過措置的に試験を受けて資格を取得しましたが、この時、私の周囲では、ベテランの先輩カウンセラーたちが不合格になられました。社会が求める『カウンセラー』の資質や感性などが時代とともに変わってきているのだろうかとも考えました。

つい先日も、私の同僚が退職され、心理とはまったく関係のない仕事に転職されたことを聞きました。

「公認心理師資格を取ったのに仕事がない」と嘆いておられる方にも時々お会いします。

2024年度は、東京都のスクールカウンセラーが250人、事実上の雇止めということでニュースになっていました。このニュース記事は、私も何件か読みましたが、ベテランのスクールカウンセラーが大量に契約を切られてしまったという内容でした。学校現場は継続を望んでいても、実際に採用を決める試験や面接の際には現場の声は基準にはならないそうです。

カウンセラーという仕事は、本来はなくてもよいと考えてきた私ですが、カウンセリングをとっても必要とされている方がいらっしゃることもわかっています。誰にも言えないけれど誰かに聴いてもらいたい思い、誰に話してもわ





かってもらえなかった気持ち、自分でも何に困っているのかがわからず、彷徨っていた悩みが、カウンセリングの時間の中で次第にほどけて来て、生きる力が湧いてくるという人にたくさんお会いして来ました。カウンセラーでなくても、担任や顧問の先生、主治医、親子、夫婦、友人、恋人など、本来は身近なところで悩みに寄り添いあってもらえればと思うのですが、それが難しくなっているのが今の社会なのかとも思います。

『カウンセラーを必要とする人』と、『カウンセラーになりたい人』、『カウンセラーになった人』、『カウンセラーを辞めた人』、それぞれの人たちにお会いしてみて、どの立場の誰もが悩んでいることがわかります。

『需要と供給』すべてはこれに尽きると言っても、身もふたもないのですが、『需要を訴えるのに供給が来ない人』、『需要がないところに供給しようとしてしまう人』、『自ら需要を作り出し供給できる人』、『需要がわからず、供給の仕方もわからない人』、これらはカウンセラーに限らないかもしれませんが、カウンセラーという職業の不安定さを通じて、社会がどのように傾いてきているのかがみえてきませんか。

仕事とは、『やりたいこと』か『やれること』のいずれかで継続できるものです。仕事が続かない場合は、そこまで『やりたい』と思えていなかったり、目の前のことを『やれる』だけの力量が足りていないということがあります。たいていは自分自身で『やりたい』や『やれる』が自覚できるものなのですが、最近はその判断がご自身でできない人が増えているように見受けられます。

『やりたい』と仰っていても、少しでも困難や、不安が出てくると、「そこまでやりたいわけではない」となってしまう

れたり、『やれる』と豪語されていた人が理想と現実のギャップに直面した瞬間に「心が折れた」と仰りあきらめてしまわれる人がたくさん在ります。

こう話すと、相談者が弱くなってきているのかと思われるかもしれませんが、実は私の感覚は逆でして、はっきり言ってもらいたがっている人が増えているように感じます。『やりたい』という思いを、私などは「え？その程度？」などと訊いてしまいますが、ご本人は「え？ほかの人は違うんですか？？」となられて、丁寧に私の感覚との違いを説明したり、いわゆる一般的、標準的な人について、または、すぐやる気のある人のお話をしたりすると、とても食いつかれるのです。おそらくですが、あまり他者との対話を経験されていないのではないかと思います。競争にさらされていなかったり、苦言を呈されたことがなかったり、または自分と近い感覚や価値観の人としか接していなかったりということかもしれません。

カウンセラーの役割とは、相手に寄り添った対話を通して、相手の中に気づきを促すことなどと若かりし頃に習いましたが、ちょっとそうも言っていられない感じがします。カウンセリングをしていると、近頃は、「ズバリ言うわよ」みたいな人が求められる瞬間が確実にあります。そんな『はっきり言ってもらいたい人たち』の中で「カウンセラーになりたい」と仰る人が特にそんな傾向があるような気がしています。

本山社会保険労務士事務所：発行年月日：2025年1月

杉並区井草1-2-11-302 03-6427-7751

※筆者は現在、クリニックでカウンセラーをされています。お仕事の関係上、氏名の公表は控えさせていただきます。

